

昔の人が食べていたものを探る

今回は牛を通じて、昔の人々の食事にも触れました。では、昔の人々が食べていたものはどうやって知ることができるのでしょうか。

まずは当時の動物の骨が残っている場合です。食用として動物の肉を解体した場合、刃物が骨に触れ、解体痕といわれる跡が残る場合がほとんどです。解体痕が見られた場合は、食用として利用された可能性が高いです。

次に、当時の人骨が残っている場合です。人骨に残されたタンパク質に含まれる炭素と窒素の同位体比を測定することで、どのような組み合わせで食物を摂取していたかを推定することができます。

日本で人骨が残ることは珍しいことですが、郡山市内でも人骨の出土した遺跡があります。その一つが、安積町の大根畑遺跡です。大根畑遺跡からは、足の骨や頭蓋骨の一部が出土しています。頭蓋骨からは虫歯の状況もわかりました。報告書によると、「この第一大臼歯は……歯根のうほう嚢胞が形成され……ついに脱落したと推定される。しかもこの歯根嚢胞は、歯の脱落后も治癒することなく、死亡時まで化膿性の炎症を起こしていたと考えられる。」とされています。まさか亡くなって何年も経ってから自分の虫歯を見られてしまうなんて、本人は想像もしていなかったことでしょう。



大根畑遺跡出土人骨全体図



大根畑遺跡出土人骨（頭蓋骨）



そうなんだね！
丁寧に歯磨きしないと……！

新型コロナウイルス感染症 拡大予防のお願い

- (1) 人との間隔をあげ、身体的距離の確保をお願いいたします。
- (2) 「マスクの着用」と「咳エチケット」をお願いいたします。
- (3) こまめな「手洗い」や「手指消毒」をお願いいたします。
- (4) 当日は検温をし、次の症状のあるお客様のご来園はご遠慮ください。

・当日を含め2週間以内に発熱（受診や服薬等により解熱している場合を含む）
 ・呼吸器症状（咳・くしゃみ等）がある方や具合の悪い方
 ・感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方

大安場史跡公園のご利用にあたっては、「新しい生活様式」を踏まえ、感染拡大防止へのご協力をお願いいたします。

大安場史跡公園

（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）

住所：福島県郡山市田村町大善寺宇大安場160番地
 電話：024-965-1088 FAX：024-965-1090
 Mail：oyasuba@bunka-manabi.or.jp
 休館日：月曜日（月曜日が祝日の時は次の休みでない日）
 ※公園は年中無休です。

ウェブサイトも
チェック！

大安場史跡公園 検索



まるさんかくしかく

タイトルはまるい石釧、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。



今城塚古墳出土牛形埴輪 (高槻市提供)

千支の考古学

新型コロナウイルスの影響もあり、今まで以上にあっという間の一年でした。皆様にとって、今年が素敵な一年になることを願います。今年^{うしどし}は丑年です。そこで今号では、古代の牛を特集しました。世界的にみると、紀元前六千年頃から牛が飼育されている痕跡がみついています。他の埴輪と比較すると数は少ないですが、古墳時代には牛を象った埴輪も見られます。日本にも古くから牛が存在していました。^{てんねんどう}会津地方の「赤べこ」も天然痘を防ぐまじないのために作られたということで、コロナ禍で話題となりました。人々の信仰・精神にもウシの姿が見えますが、古代の人々は牛とどのように関わってきたのでしょうか。

古代のウシの姿

牛肉を食べるようになったのは、いつ頃のことなのでしょう。日本では仏教の影響から肉食が禁止されており、明治期の文明開化によって肉食が一般的になる、というイメージが強いかと思えます。

鶴澤和宏氏によると、初めて肉食禁止令が出されたのは、675年です。天武天皇によるこの詔勅以降、何度も肉食禁止の詔が発令されています。度重なる発令は、肉食が繰り返されていたことの裏返しであるとも考えられます。

右の図は、山内昶氏が日本書紀などを参考に作成した、殺生禁断令の一覧です。特に繰り返し肉食禁止の対象に含まれているのが、牛・馬です。ほとんどを家畜家禽が占めており、一方で鹿や猪をはじめとする野生動物は対象外となることもありました。そのため、肉食そのものを強く禁止する意図はなかったとされています。

年代	禁止動物
675(天武4)年	牛・馬・犬・猿・鶏
721(養老5)年	鷹狗・鶉・鶏・猪放生
730(天平2)年	猪・鹿
732(天平4)年	私畜猪40頭放生
741(天平13)年	馬・牛
758(天平宝宇2)年	猪・鹿
791(延暦10)年	牛
801(延暦20)年	牛
804(延暦23)年	牛
811(弘仁元)年	牛・馬
1126(大治元)年	鶉・鷹・犬放生

山内(1994)より一部抜粋



食べる



乳製品も食べていた記録がみついています。コロナ禍で話題となった「蘇」は、牛乳を約十分の一に煮詰めて作るチーズのようなものです。佐藤健太郎氏は、藤原道長が熱気による体調不良のために「蘇蜜煮」を服用していた事例などを挙げ、当時は①薬として、②食用として、③仏教儀礼などにおける供物として蘇が利用されていたことを明らかにしています。

このように、都や宮中において蘇は多く用いられていました。そのため中央にも牛乳や蘇を生産するための部署がありましたが、朝廷は地方にもたくさんの蘇を納めさせていました。その負担は大きかったようで、朝廷は三年に一度から六年に一度の貢納にするなど、確実な貢納をめざして負担を軽減するなどの措置をとるほどでした。

また、蘇以外にも牛乳が薬として用いられていた事例や、ヨーグルトやコンデンスミルクに近い「酪」、乾燥させた湯羹のような「乳脯」など、様々な乳製品の存在を指摘しています。

大宮場史跡公園でも、蘇を作る体験を行いました。500mlの牛乳から蘇を作るのに、40分～1時間ほどかかります。



肉食禁止令や殺生禁止令の発令以降、「食べるための家畜」という感覚は弱くなります。ウシは耕作用と荷車用に飼育されるようになります。中国や西欧では家畜は食べることが当然で、「食べない家畜」というのは、日本独自の価値観です。

耕作

田畑を耕すため、馬や牛を利用していました。諸説ありますが、河野通明氏によると、牛が日本に伝えられたのは馬よりも後のことで、6世紀頃のこととされています。時代が下るにつれ、東日本で馬を、西日本で牛を利用する傾向が高まりました。使用する犁や鞍も、地域ごとに形が異なります。

前述した天武天皇による肉食禁止令は4月から9月までの期間限定のものでしたが、その期間は農繁期です。肉食禁止の背景には、農業生産との関係が指摘されています。



『松崎天神縁起』(山口県防府天満宮提供)



祭祀

牛を用いた祭祀も行なわれていました。北條朝彦氏は、『日本書紀』や『続日本紀』に見られる記事から、牛を捧げる祭祀には雨ごい祭祀と中国由来のたたりを祓う祭祀の二系統があったことを指摘しています。神奈川県鉾田遺跡では、7世紀初頭と思われる土坑から土師器坏などと一緒に関の頭蓋骨が出土しています。

鉾田遺跡出土牛骨(横須賀市教育委員会提供)

乗る運ぶ

「牛車」には2種類あることをご存じでしょうか。屋根のある乗り物として用いられる「ぎっしゃ」と、屋根のない荷物運搬用の「うしぐるま」です。

北條氏によると、乗用車としての牛車が登場するのは平安時代ですが、運搬用の牛車は奈良時代以前より用いられていたようです。藤原京や平城京からは、轆やむながい棒などが出土しています。

牛車にのることができたのは女性が主であったようで、10世紀では、上皇など特に許された者以外の男性は乗馬が基本でした。11世紀になると、牛車に関する規定が定められ、牛車の装飾などで身分を示したとも考えられています。

【参考文献】

鶴澤和宏「肉食の変遷」『人と動物の日本史1 動物の考古学』(2008)西本豊弘編 吉川弘文館
河野通明「一 農耕と牛馬」『人と動物の日本史2 歴史の中の動物たち』(2009)中澤克昭編 吉川弘文館
佐藤健太郎「古代日本の牛乳・乳製品の利用を推進体制について」(2012)
北條朝彦「丑」『十二支になった動物たちの考古学』(2015)設楽博巳編 新泉社
山内昶「食」の歴史人類学—比較文化論の地平—(1994)人文書院

『古事類苑』に見られる牛車

牛車の種類	特徴
からびさしのくるま 唐 鹿 車	唐風に仕立てられ、簾も色彩やかな糸や紐で飾られた。上皇や摂政・関白など、位の高い人物にのみ乗車を許された。
びろうけのくるま 檳 榔 毛 車	檳榔の葉を裂き、飾られた牛車。
いとげのくるま 糸 毛 車	糸で飾った牛車。糸の色により、青糸毛、紫糸毛など細分される。
あじろくるま 網 代 車	竹やヒノキで編んだ網代で飾られた牛車。

女性たちの間では、乗り口の簾から着物の裾をお洒落にのぞかせるのが流行していたんだって!

